



S.Setoguchi

THE TOKAI STAKES

第42回 東海ステークス (GIII)

1着	2着	3着	4着	5着
本賞 38,000,000円	15,000,000円	9,500,000円	5,700,000円	3,800,000円
付加賞 574,000円	164,000円	82,000円		



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

3歳以上、除未出走馬および未勝利馬

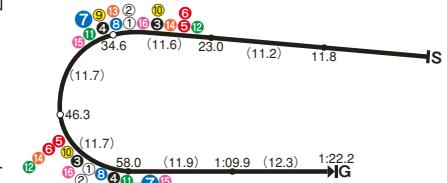
負担重量 3歳54kg、4歳以上57kg、牝馬2kg減、2024.7.20以降G I競走(牝馬限定競走を除く)1着馬3kg増、
牝馬限定G I競走またはG II競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2kg増、牝馬限定G II競走またはG III競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1kg増、2024.7.19以前のG I競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2kg増、牝馬限定G I競走またはG II競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1kg増(ただし2歳時の成績を除く)

2025.7.27 中京 晴・良 ダ1400m (国際) (指定)

順位	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム	コーナー	上り	馬体重	単勝	オッズ	調教師	レーティング
					(着差)	通過順位	(600m)	(増減)				
1	⑦ ヤマニンウルス	牡5	57	武 豊	1:22.2	2-2	35.7	582(-2)	7.5(4)	齊藤崇史(栗東)	114	
2	⑧ インユアパレス	牡4	57	川田将雅	3 1/2	6-6	35.7	486(+2)	6.0(3)	須貝尚介(栗東)	107	
3	② ビダーヤ	牡4	57	坂井壘星	1 1/2	8-7	35.8	496(+2)	3.8(1)	矢作芳人(栗東)	104	
4	③ オメガギネス	牡5	57	岩田康誠	1/2	11-10	35.6	504(±0)	10.5(5)	安田翔伍(栗東)	103	
5	⑯ サンライズフレイム	牡5	57	菱田裕二	クビ	10-10	35.8	518(-2)	4.1(2)	石坂公一(栗東)	102	
6	⑬ コンクリスタ	駆5	57	松山弘平	3/4	6-7	36.3	476(-8)	11.7(6)	吉岡義弥(栗東)	101	
7	⑮ リジル	牝4	55	田口貴太	2	1-1	37.4	484(-8)	67.5(3)	奥村 豊(栗東)	100	
8	⑫ アルファマム	牝6	55	田口大成	1/2	16-13	35.9	462(-4)	21.1(8)	佐々木晶三(栗東)	99	
9	⑥ ダノンスコーピオン	牡6	59	幸 英明	1	14-13	36.2	468(+7)	56.0(2)	福永祐一(栗東)	98	
10	⑭ サンライスホーク	駆6	57	吉村誠之助	1 1/4	13-13	36.5	516(+5)	16.8(7)	牧浦充徳(栗東)	97	
11	④ エートラックス	牡4	58	A.パデル	アタマ	4-4	37.4	514(-2)	24.1(9)	宮本 博(栗東)	96	
12	⑤ イグザルト	牡6	57	御神本訓史	クビ	14-13	36.4	512(+6)	104.2(5)	荒山勝徳(大井)	95	
13	⑩ ヴィクトィファルス	駆7	58	亀田温心	1 1/4	11-12	36.8	484(±0)	217.7(7)	池添 学(栗東)	94	
14	⑪ ロードエクレール	牡7	57	高杉吏麿	2 1/2	2-3	38.2	484(-2)	36.2(10)	斎藤 誠(美浦)	93	
15	⑨ ライツフォル	牡5	57	小沢大仁	クビ	4-4	38.1	496(+2)	40.4(0)	高橋義忠(栗東)	92	
16	① アドバンスファラオ	牡5	57	松若風馬	3	8-7	38.1	498(+8)	80.4(0)	森 秀行(栗東)	91	

単勝⑦500円(4%) 複勝⑦270円(4%) ⑧190円(3%) ⑨160円(2%) 枠連④-④,3,110円(13%)

馬連⑦-⑧2,920円(12%) ワイド⑦-⑧1,100円(13%) ②-⑦790円(6%) ②-⑧500円(3%)
馬単⑦-⑧5,610円(22%) 3連複②-⑦-⑧2,970円(4%) 3連単⑦-⑧-⑨19,390円(34%)



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
34.6 - 46.3 - 58.0 47.6 - 35.9

アラカルト

- 武豊騎手はインティで制した19年に統く東海S3勝目。JRA重賞は本年3勝目、通算366勝目
- 齊藤崇史調教師は東海S初勝利。JRA重賞は本年4勝目、通算26勝目
- ジャスタウェイ産駒はJRA重賞通算10勝目
- 5歳馬の勝利は21年オーヴェルニュに続く通算16回目
- ヤマニンウルスの馬体重582kgは14年ニホンピロアワーズの馬体重544kgを更新する本競走優勝馬の最高馬体重記録
- 非抽選馬 3頭(エミサキホコル、サトノルフィアン、マイクアリーフ)

ヤマニンウルス *Yamanin Ours*

牡 鹿毛 2020.5.21生
北海道新冠町 錦岡牧場生産
馬主・土井肇氏 栗東・齊藤崇史厩舎
馬名意味・冠名十クマ(仏)

		ワンオブアクラインUSA系 F10-d	
ジャスタウェイ 鹿毛 2009	ハーツクライ 鹿毛 2001	サンデーサイレンスUSA	
		アイリッシュダンス	
	シビル 鹿毛 1999	Wild Again	
		シャロンUSA	
ヤマニンパピオネ 芦毛 2008	スウェフトオーヴァーボードUSA 芦毛 1997	End Sweep	
		Sheer Ice	
	ヤマニンメルティ 黒鹿毛 1996	ジェイドロバリーUSA	
		ワンオブアクラインUSA	

5代までのインブリード：Mr.Prospector M4×M5

INTERVIEW

村山大河氏(錦岡牧場)

いい頃のウルスが戻ってきたと思いました

前走の負け方が気になっていたので期待と不安が半々でした。しかし3、4コーナーからの行きっぷりを見て、いい頃のウルスが戻ってきたと思いました。去年は期待していたチャンピオンズCでの除外と、名古屋大賞典6着という結果にとてもショックを受けたので、1年ぶりとなる今回の勝利は本当に嬉しいです。また大きなところを目指して頑張ってほしいです。



2歳8月の初陣は2着馬に4秒3もの大差をつけて圧勝。衝撃的なデビューを皮切りに、プロキオンSまで無傷の5連勝を飾った本馬だが、その後は4戦して3着が1回とスランプに陥っていた。それでも4月のアンタレスSで7着に敗れた後、3カ月の休養を挟んで態勢を立て直し、初めてプリンセスSでも着用して臨んだこの日は抜きん出た強さと速さをアピール。雌伏の時期を乗り越えたジャスタウェイ産駒が、リスタートの一歩を踏み出した。

父ジャスタウェイ

北海道浦河町 (有)社台コーポレーション白老ファーム生産 中央、首、仏22戦6勝(天皇賞(秋)^{G1}、ドバイデューティフリー、首^{G1}、安田記念^{G1}、中山記念^{G1}、アーリントンC^{G3}、ジャパン^{G1}2着)、最優秀4歳以上牡馬、15年から供用
〔代表産駒〕ダノンザキッド(ホープフルS^{G1})、テオレーマ(JBCレディスクラシックJ_{pn} I)、ガストリック(東京スポーツ杯2歳S^{G1})、エーポス(フィリーズレビュー^{G1})、マスターフェンサー(名古屋グランプリJ_{pn} II)、ヴェルテックス(名古屋グランプリJ_{pn} II)、ヤマニンウルス(本馬)、アドマイヤジャスタ(函館記念^{G3})、アヴィルアウェイ(シルクロードS^{G3})、ロードマイウェイ(チャレンジC^{G3})、コレペティトール(京都金杯^{G3})、ヴェロックス(若葉S・L、若駒S・L、皐月賞^{G1}2着、日本ダービー^{G1}3着)、アルーリングウェイ(エルフインS・L)、ハーフパック(オーロC・L)、ポッドボレット(すみれS・L)

母ヤマニンパピオネ

北海道新琴似町 錦岡牧場生産 中央24戦4勝(米沢特別2回)

(15 牝父ブラックタيد)

ヤマニンブルーベル(16 牝父ダイワメジヤー)中央10戦2勝

ヤマニンブルニエ(17 牝父ゴールドシップ)中央5戦0勝、地方54戦2勝
ヤマニンサンバ(18 牡父ディープインパクト)中央23戦3勝(飛鳥S、カシオペアS・L3着、アンドロメダS・L3着、ケフェウスS 3着)、バーンレーイン1戦0勝(重)

ヤマニンアンフィル(19 牝父ダイワメジャー)中央26戦4勝(佐世保S、知多特別I)4回

ヤマニンウルス 本馬(20 牡父ジャスタウェイ)中央9戦6勝(東海S G3、プロキオンS G3、雅S、コーラルS・L3着)、地方1戦0勝
獲得賞金129,070,000円

獲得賞金128,072,000円

徒3、1
(88 不妥帖)

(22 不爻脂)

マシンリスト(23 社会アドバイメント) (24 牡公エピスマキイズ)

(25 牛父パン共ラッ共)

(25 札又ハシリノクリ) 船母セマニンメルテイ

北海道新琴似町 鎮岡牧場

北海道新旭町 端町牧場主

新装レースで素質再
昨年の新潟で導入された「競走時間
帯の拡大」を新たに実施するなど、様々な暑熱対策が講じられた夏の中京開催
がスタート。その開幕週に組まれた東
海Sは今年から、1月に移設されたプロ
キオンSの条件(別定、ダート14
00㍍)を受け、繰り短距離重賞に生ま
れ変わった。新装初年度のレースを彩
つたのは、デビュー当初から将来を嘱
望されてきた素質馬の復活劇。昨年の
プロキオンS(小倉のダート1700
㍍で実施)の覇者ヤマニンウルスがス
ランプのトンネルを抜け出し、1年ぶ
りの勝利を掴んだ。

先導役を務めたのは外枠から意欲的
に飛び出したリジル。五分のスタートト
ト

を切り、序盤は4番手につけたヤマニンウルスの武豊騎手は3コーナーから自然体で進出し、2番手に上がる。3勝クラスを卒業後、オープン特別で3回の2着を記録している3番人気のインユアパレスは中団を追走。1番人気にして支持された4連勝中の新星ビダーヤは直後の内、ダートの1400m戦6勝の実績を誇る2番人気のサンライズフレームは後方の外で脚を溜めた。楽な手応えを保つたまま、前に迫つた武騎手は直線の坂の上りでリジルを競り落として先頭へ。4コーナーで離された後続からはインユアパレスとジャーヤが伸びてきたものの、ビハイインドを覆すほどの脚は使えず、勝負の大